

# 国登録文化財に五臓圓ビル

## 文化審答申 「鳥取のシンボル」評価

国の文化審議会は11日、鳥取市二階町の智頭街道沿いに立つ「五臓圓ビル」（3階建て）を国登録有形文化財とするよう文部科学相に答申した。現存する市内最古の鉄筋コンクリートビルで、鳥取地震（1943年）、鳥取大火（52年）をくぐり抜け、市のシンボルの一つになっている点が評価された。市民団体がビルの復元、活用に向けて募金活動などを始めており、メンバーは「ビルを核にした街の活性化につなげたい」と喜んでいる。



五臓圓ビルの国登録文化財答申を喜ぶ森下さん

同ビルは31年、タイル張りで、外壁の最上部に蛇腹状の凹凸を持つモダンなデザインで完成。1階は薬局、2階は従業員宿舎、3階はレストランとして使われ、レストランは町の文化サロンでもあったという。

鳥取地震に耐え、鳥取大火でも内部は焼けたが建物が残った。その後、老朽化が進み、97年の改装でタイルや凹凸は姿を消した。現在は1階の五臓圓薬局以外は使われていない。

再生の取り組みが本格化したのは、今年6月。かつての外観を取り戻し、市のランドマークとして人が集う場にしようとして、智頭街道商店街振興組合理事長の常村護さん(59)らが「保

存活用する会」を結成。工費の募金やライトアップ、一般公開などを進めている。7、8月には県教委などを通じて文化庁に文化財登録を申請。建築士らに依頼し、価値を解説する資料を作成するなど精力的に動いてきた。

会長を務める常村さんは「ビルの価値について国のお墨付きをもらったのは大きい。復元に向けて本当のスタートラインに立てた」。五臓圓薬局社長の森下章さん(52)も「市民が利用できる機会を増やしたい」と意気込んでいる。

同会は今後、募金と並行し、2、3階部分でコンサートや美術イベントなどを催す計画だ。

県教委によると、県内の国登録有形文化財はこれで142件となった。